



ジョイジョイだより

「私は山に向かって目を上げる。私の助けは、どこから来るのか。私の助けは、主から来る。天地を造られたお方から。

主はあなたを行くにも帰るにも今よりとこしえまでも守られる。」 聖書

お子さんにとっては、期待と不安、楽しみと大変さを知った4月ではなかったでしょうか。保育園、幼稚園、学校を1日やり切った子どもたちが来所した様子からも感じられた1ヶ月でした。保護者の方にとっても、「学校で元気にしてるかな？お友だちと仲良く出来てるかな？」など心配が尽きないと思います。聖書の通り、「神様は、お父さんやお母さんがみんなの事を見ることが出来ない時も、ちゃんと見ていて下さり、必要な助けや励ましを与えてくれるよ」と伝えたいと思います。また、自分の気持ちや感情を溜め込まずに、何でも話せる関係を築いていけるように今年度も精一杯、お子さんやご家族に関わっていきたいと思います。

児童発達支援管理責任者 吉持 早稚子

一本の紹介

「愛着障害は何歳からでも必修復できる」 「やさしくわかる！愛着障害」著：米澤好史
＜愛着障害とは？＞

「愛着障害」ということばを聞くと、皆さんはどのようなイメージを持ちますか？「愛情不足」「虐待」など親が良くない関わりをしているというイメージがあるのではないのでしょうか。しかし、愛着障害は関係性の障害ですので、必ずしも親の関わりが原因とは限りません。一生懸命に愛情を注いでいても、その愛情を受け取る子どもの「愛情の器」が様々な形をしているので、愛情が溜まらなかったり、受け取り口が狭かったりという理由もあると、本書では図を用いてわかりやすく説明しています。愛着障害の特徴として「多動」・「危険な行動」・「片付けの問題」などが挙げられていますが、発達障害の特性と似ているところがあります。また、発達障害と愛着障害を併せ持っている場合もあるそうです。同じように見える一つの行動（例えば落ち着きがない）でも、その背景にはそれぞれの理由があることを気づかされ、改めて子ども一人ひとりに合った関わり・支援を考えるきっかけになる2冊です。



ージョイジョイの防災についてー

業務継続計画 (BCP) の策定が 2024 年 4 月より義務化されました。予期せぬ状況下でもサービスを継続し、迅速に復旧するための指針となります。これに伴い、予期せぬ災害が起こった際に二日間、子どもと指導員が過ごせるだけの備蓄品も揃えました。

懐中電灯や救急箱、防災頭巾や食料や水等の基本的なものから、非常用トイレ、ポータブル電源、プロパンガスによる発電機を準備しました。また、放課後等デイサービスでは長期休みの際に避難訓練を毎回行っています。春休みは地震を想定した避難訓練を実施しました。児童発達支援も定期的に実施しています。



ーリトルジョイー



昨年度、年長児 5 名が卒園しました。3 学期は仲間意識が芽生え、友だちと一緒にルールのある遊びを楽しむ姿があり、成長を感じた学年末でした。入学を前に、ランドセルの話題が持ち上がり、子ども達自身も大きくなることを楽しみにしている様子が見られました。

今年度は年中児 4 名でスタートです。以前からリトルジョイを利用されているお子さんもいますが、同じクラスで過ごすのは初めてです。初回はどのような雰囲気になるか、保育士もドキドキでしたが、友だちの存在を気にして声を掛けたり、同じ遊びを横で楽しむ姿があり、穏やかな時間でした。これから 1 年間、小集団の中でのびのびと楽しく過ごし、一人ひとりの「その子らしさ」が出せる場所になるようにしたいと思います。



ージョイジョイー



小学校 1 年生から通われている 4 名の利用者さんが高校生になりました。それぞれの選んだ進路に進み、頑張っていることと思います。また、今年度は新 1 年生が 7 名加わりました。そのうち 4 名が児童発達支援から持ち上がりです。新年度の自己紹介では先輩として、各々がおすすめるジョイジョイの遊びを紹介してくれたり、身辺整理を手伝ってくれたりとお兄さん、お姉さんらしい一面を見る機会となりました。

春休みにはイースターのたまご型クッキー作りをしました。イースターとは十字架にかけ、3 日目によみがえったイエス・キリストの復活をお祝いする日です。卵は生命のはじまりの象徴であり、殻を破って復活したという意味も込められ、イースターのシンボルとなりました。クッキーは一人分の材料をポリ袋に入れ、こねて成形し、飾り付けや焼き上がりを楽しみました。コロナ過も落ち着いてきたため、長期休み等の全体活動で少しずつ調理も取り入れていく予定です。